

水温分布と海流が富山湾における 定置網のブリの漁獲量増加に与える影響

吉松 晃平

【目的】富山湾は本州の中央に位置する日本海側最大の湾である。浅瀬が少なく、水深が急に深くなっていることが特徴であり、最深部は1000m以上に達する。湾内では、300m以深は、年間を通じて水温が1°C~2°Cの日本海固有水があり、その上層には温暖な対馬暖流水がある。そのため、冷水域、暖水域に生息する様々な種類の魚が漁獲される。また、富山湾における漁獲の7割以上が定置網によるものである。定置網とは、魚が来遊する期間または周年において一定の場所に設置し、魚群をその内部に滞留させる仕掛けを持つ漁具である。その定置網で漁獲されるブリ *Seriola quinqueradiata* は富山県の名産品であり、価値が高い魚種とされている。ブリは先行研究により8月から11月にかけて北海道周辺に滞留し、12月から1月にかけて日本海側を急速に南下するという移動経路が解明されている。富山湾内でのブリ漁の最盛期も12月であることから、この時期の海水温と海流が暖水を好むブリの漁獲量増加に影響を与えている可能性が考えられる。そこで、本研究では、水温分布と海流が富山湾における定置網のブリの漁獲量増加に与える影響を調べた。

【方法】富山県の氷見漁業協同組合から提供された2005年11月から2009年6月までの富山湾西部における大型定置網14ヶ統、小型定置網5ヶ統の漁獲データを整理した。その中でブリの漁獲が盛んな冬の時期でも特に漁獲量の多かった2005年12月22日から12月31日に着目し、水温分布と海流との関係を調べた。漁獲量の推移と風速、水温、水温分布図、海流の関係を検討した。風速と海流は気象庁、水温分布図と海流は日本海海況予測システム(JADE)のそれぞれのホームページから引用した。

【結果】漁獲量の推移と水温、風速の関係では、風速が強くなると、水温が低下し、漁獲量が増えるという関係が見られた(Fig. 1)。漁獲量の推移と水温分布図の関係から、12°C~14°Cの冷水が富山湾に流入した時に漁獲量が増加するという結果が得られた。このことから、12°C~14°Cの冷水の南下と共にブリが湾内に流入する可能性が示唆された。漁獲量の推移と海流との関係では、還流の向きが漁獲量の増加に影響を与える可能性が考えられる。

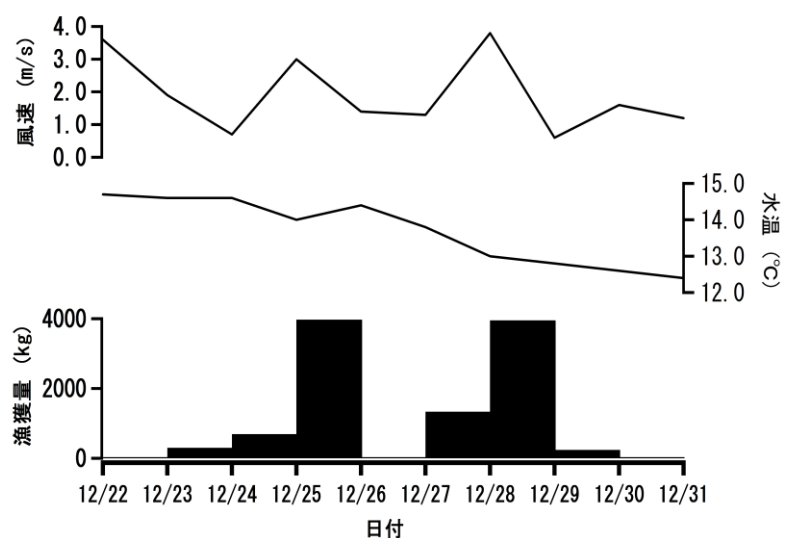


Fig. 1 2005年12月22日から12月31日の定置網「前大」の風速、水温、漁獲量